

北海道福祉サービス第三者評価結果報告書

2019年2月15日

株式会社G's Company 保育園げんき！ 宛

〒 006-0029

住所

札幌市手稲区手稲本町2条1丁目4-5

電話番号 011-299-2931

評価機関名 サード・アイ合同会社

認証番号 北海道 17-001

代表者氏名

鈴木 正子



下記のとおり評価を行ったので報告します。

記

評価調査者氏名・ 分野・ 評価調査者番号	評価調査者氏名		分野	評価調査者番号
	(1)	武藤 洋一	福祉医療保健	第0214号
	(2)	鈴木 正子	総合	第0129号
	(3)	武田 志津子	福祉医療保健	第0120号
	(4)			
	(5)			
サービス種別	保育所			
事業所名称	保育園げんき！			
設置者名称	株式会社G's Company			
運営者(指定管理者)名称	同上			
評価実施期間(契約日から報告書提出日)	2018年7月2日	～	2018年2月22日	
利用者調査実施時期	2018年8月1日	～	2018年8月10日	
訪問調査日	2019年1月18日			
評価合議日	2019年2月2日			
評価結果報告日	2019年2月22日			
評価結果の公表について運営者の同意の有無	<input checked="" type="radio"/> 同意あり <input type="radio"/> 同意なし			
※評価結果の公表について運営者が同意しない場合のみ理由を記載してください。				

総評

<特に評価の高い点>

1、「保護者支援」

小規模保育園の特質を活かし、職員全体で子どもの状況を把握することで、保護者の安心感を高めています。保護者の悩みには、担当保育士以外の保育士でも対応できる体制をつくっています。特に、送迎時には保護者がリラックスして相談できるような環境作りを心掛けています。保護者からの相談内容は記録し、職員間で周知しています。

保護者の養育を否定するのではなく、保育場面での子どもの様子をさりげなく伝えることで、保護者の気づきを促しています。また、保護者には、子どもの良い点を伸ばすことを中心にして伝え、子どもの成長をともに喜び支えています。

2、「働きやすい環境づくり」

働きやすい環境づくりを目指し人事考課を導入し、話し合いが行われています。職員の休憩室や相談室といったスペースの確保にはハード面で限界がありますが、少人数の職員と園長・副園長が一体となって家庭的な職場の雰囲気となっています。職員の過重な負担感軽減や労務管理の観点から、長時間の会議時間を是正する等にも留意しています。

また、リフレッシュ休暇の取得もあります。福利厚生は、全ての職員が対象となっています。中小企業家同友会等の私保険に複数加入し、社会福祉法人の共済を利用できない難点をカバーして、職員の処遇を整えています。職員の定着率の高さからも、働きやすい環境づくりを目指していることが窺えます。

<更なる質の向上のために求められる点>

1、「保育の標準的実施方法への取り組み」

クラス毎の打ち合わせをし、月に1回職員会議は開いて、子どもの情報を共有しています。毎日の朝の子どもの受入れノートや、職員連絡ノートを作成し、クラス担当以外でも、職員全体で日々の子どもの状況を確認できるようにしています。さらに、保育の注意事項を掲示したり、保育園内で必要な伝達研修も行っています。但し、乳児保育のベテラン保育士を中心に、日々の保育を実践しているために、改めて保育の方法を確認・共有化して、文書化を進める取り組みには至っていません。保育の標準的実施方法とは、保育の画一化ではなく職員として実施する基本を共通化しておくことにあります。現状の保育の質を担保、向上させるためにも保育の標準的実施方法への取り組みに期待します。

2、「アセスメントによる個別指導計画の作成」

保育園では、児童票や日々の保育の実践記録、会議録、保護者との連絡ノートや面談記録等を通して、子どもや保護者の状況を把握しています。アセスメントとは、これらの把握した子どもと保護者の状況を、個別な指導計画に活かすことを意味しています。即ち、アセスメントがあって初めて、そこから子ども一人ひとりの目標を立てることが出来、それに即した個別な指導計画を作成することができるのです。

子どもの成長・発達や保護者との関わりを、日々の保育に活かしていくことが基本であり、計画の評価・見直しに繋げていくことが必要となります。

日々の子どもの記録をアセスメントとして意識化するとともに、個別指導計画の評価見直しが保育の質の向上に結び付き、次の計画に活かされることに期待します。

評価対象 保育所 付加基準

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
A①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b 既成の書式を用い全体的な計画を作成しているが、指導計画とどのように連動させるのかにも工夫が必要である。今後の改正に向けた取組に期待したい。
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b 除湿器・加湿器・空気清浄機等の機器やクーラーを設置し、温湿度計で管理している。遊具の配置や消毒を行っている。寝具はレンタルを利用している。今後は、洗面・トイレ環境の整備や音への配慮など、限られた空間を、より良い保育環境に整えるための一層の工夫に期待したい。
A③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b 小規模保育園の特質を、一つの大きな家族と捉え、クラスに関わらず、保育者全体で子どもに対応できるようにしている。子どもの発達の個人差への対応と、集団でのペースでの対応に課題を感じ、工夫を重ねている。今後も、制止やせかす等の言葉に配慮して、子どもを受容していくことに期待したい。
A④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	b 個々の子どもの発達段階に合わせて、家庭での子どもの生活リズムを把握しつつ、保育者間で情報を交換し、必要な基本的な生活習慣を身につけられるように保育をしている。今後は、子どもが理解しやすい方法・やり方を示して、子どもが自分でやろうとする気持ちを育み、達成感につなげる取り組みにも期待したい。
A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b 子どもの発達段階に合わせて、おもに設定保育の中で、様々な素材や遊びを提供している。子どもの主体性とは、子どもの「やりたい」という気持ちを育み、安心して挑戦できるように働きかけ、子どもがやり遂げようとするのを受け止めることにある。今後は、保育者間の共通認識を高めることに意欲を示していることから、保育環境の整備に期待したい。
A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b 子どもが安心・安定して過ごす環境を最優先にし、担当保育士を特定して、愛着関係を築いている。同時に、保育者の誰もが、保護者の相談相手となれるように、子どもの情報を共有している。家庭での子どもの生活リズムの把握には、日々の連絡帳に加えて、送迎時に、保護者が相談しやすいリラックスした環境作りを心掛けている。今後は、小規模保育園ならではのマニュアルの作成に意欲を示しており期待したい。
A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b 子どもが月齢や個々の発達段階の差が大きい場合、子どもの興味・関心を促して保育場面を展開させている。子どもの自我の育ちを受け止めるため、応答的・受容的に関わっている。子どもの活動範囲が広がり、探索行動が活発になっているが、施設の限られた空間をどのように活用するか工夫が求められる。今後は、子どもの様子を確かめる日々の記録・保育実践の整備に期待したい。

A-2-(2) 保護者等の支援			
A⑧	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	保護者の養育を否定するのではなく、保育場面での子どもの様子をさりげなく伝えることで、保護者の気づきを促している。小規模保育園の特質を活かし、職員全体が保護者の悩みに対応できる体制をつくっている。保護者からの相談内容は記録し、職員間で周知している。
A⑧	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b	早期発見には、子どもと保護者の両面からのSOSに敏感になることを実感している。保護者との関わりを重要視し家庭情報の把握に努めていることから、どのように保護者を支え、予防するかを模索している。今後は、園内研修を充実させて虐待マニュアルへの理解を深め、早期発見・対応のために日々の保育に活かしていくことに期待したい。

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果	
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）			
A⑧	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b	自己評価での改善点として、職員間の引継ぎ・連絡を、一層密にする必要性が話し合わせ、早急に取り組んだ。朝の子どもの受入れノートを設け、子どもの情報周知を徹底している。さらに職員間の情報共有のために、職員の連絡ノートを設けた。今後も、自己評価のPDCAサイクルを活かし、園全体で取り組むことに期待したい。